

北朝鮮における人権に関する調査委員会とのインタラクティブ・ダイアログにおける
ステートメント

我が国は、カービー委員長をはじめとする、北朝鮮における人権に関する国連調査委員会（COI）チームの献身的な努力と成果を賞賛します。

COIの報告書は、北朝鮮の人権侵害の恐るべき実態を明らかにしました。報告書は、政治犯収容所や拉致を含む多くの分野における人権侵害を人道に対する罪に該当すると判断し、北朝鮮に対し、具体的な取組を勧告すると共に、国際社会の強力な対応を呼びかけています。

しかし、北朝鮮は、COIの入域を認めず非協力的姿勢を取り続けており、同報告書についても一考の価値もないと評するなど、人権理事会の活動を全く尊重していません。我が国は、北朝鮮に対し、誠意ある早急な対応を強く望みます。

COIの活動の集大成たる報告書を単なる報告書で終わらせるべきではありません。我が国は、今次人権理事会に、同報告書に盛り込まれた勧告を反映した北朝鮮人権状況決議案を、EUと共に提出します。各国の決議案への支持を強く期待します。

ここで、そうした強い決議の採択を心より願い、議長のお許しを得て、今回、日本政府代表団の一員であり、拉致被害者のご家族でいらっしゃる飯塚繁雄氏にステートメントを続けていただきます。

ただいまご紹介にあずかりました飯塚繁雄です。

私の妹、田口八重子は1978年に日本国内から拉致されました。当時、妹には2歳の娘と1歳の息子がおりました。

妹は工作船で北朝鮮の港に着いた直後に、自分には幼い子どもがいるから日本に返して欲しいと必死で頼んだといいます。妹は1987年、北朝鮮が起こした大韓航空機爆破テロ事件の犯人に日本語や日本の習慣などを教える教師をさせられていたことが分かっています。

今回の報告書には、妹のこと、それ以外の日本人や他の外国人拉致被害者のことが詳しく書いてあります。

北朝鮮による拉致被害者は、韓国、タイ、レバノン、ルーマニア、中国マカオなどにまたがっています。3月3日に、そうした世界中の拉致被害者家族が東京に集まり、愛する家族を取り戻し、北朝鮮の人権問題を解決するためにこの重要な報告書を活かして我々が今後何をすべきかを議論しました。

全世界の拉致家族を代表して、世界規模の拉致を網羅した報告書を取りまとめていただいた、COIのカービー委員長、マルズキ委員そしてビセルコ委員に感謝します。ぜひすべての拉致被害者が家族の元に帰り、北朝鮮の住民が人間の尊厳を回復できるように皆さまの一層のご努力をお願いします。